

彙報（二〇二一年度）

† 教員関係

二〇二一年四月

井上貴恵専任講師が着任

二〇二一年度新規兼任講師（哲学専攻設置科目）

王前兼任講師（担当科目「政治と哲学」）

小草泰兼任講師（担当科目「心と身体の哲学」）

國領佳樹兼任講師（担当科目「コミュニケーションの哲学」）

李穌書兼任講師（担当科目「老いと病いの哲学」）

二〇二二年三月

青田麻未兼任講師退職

梅田孝太兼任講師退職

堀江有里兼任講師退職

† 学生関係

二〇二一年四月

第四期として四十九名入学。

二年次に一名編入

二〇二二年三月

第一期生として三十一名卒業

† 卒業論文題目一覧

- ・カントの倫理学と状況倫理のすれ違いの問題について―善意の嘘を通じた考察―
- ・善い嘘はあるのか―カント『人倫の形而上学の基礎づけ』における考察―
- ・死を前にしての不安をどのように捉えるべきか―ハイデガーから見た死の不安―
- ・ハイデガー『存在と時間』における実存論的独我論について

- ・ハイデガー『存在と時間』における死とは何か―不安の対象としての死―
 - ・ハイデガー「技術とは何だろうか」における現代技術
 - ・意味はいかにしてあるものの理解を可能にするのか―ウーシアをめぐる解釈と並行して―
 - ・存在者は関係的か非関係的か―グレアム・ハーマンとステイーヴン・シャヴィロの論争をめぐつて―
 - ・脳死をめぐる死の自己決定権を認めないと言えるのか
 - ・こどもの哲学対話において「知的に安全な場所」はどのように作られるのか―教室での実践からの考察―
 - ・教育現場で行われる哲学対話の課題と解決策
 - ・学問学としての「仁齋学」―人が人として生きるための営み―
 - ・女性の自由な選択のために―家族と労働の関わりから
 - ・私の学生としての学びにはどのような意味があったのか
 - ・「人間と機械」というテーマから考えられる諸問題についての考察
 - ・「理解社会学」への論駁とタルドの「模倣」
 - ・脱構築の展開―対話可能性による現代アートへの態度―
 - ・今、レヴィナス『逃走論』を読むということについて
 - ・レンマとその科学的実践
 - ・「不幸」を生きること
 - ・ノイズからみた音楽とその受容
 - ・哲学対話の発話にはどのような特徴があるか―日本語教育学的視点からの哲学対話実践の分析と応用―
 - ・ホップズの国家論において国民の安全は守られるのか
 - ・ヒュームの述べた因果論はどのようなものか
 - ・『論理哲学論考』で用いられる「対象」とは何か
 - ・目的論的意味論はどのようにして志向性の自然化を試みているか
 - ・ハード決定論は私たちの行為をどのように捉えるのか
 - ・王龍溪の学問観―学校教育における主体的学びの観点とともに―
 - ・武士の対人観念について
 - ・鶴澤總明の法哲学と極東国際軍事裁判―鶴澤總明の老荘思想解釈から―
 - ・福沢諭吉の女性論、家族論
 - ・西田思想に見る戦争協力―『日本文化の問題』『学問的方法』を中心に―
 - ・思想としての天皇―和辻倫理学を参考に―
 - ・「ありのまま」とは何を意味しているのか―エンハンスメントの議論と障害の社会モデルから考える―
- (順不同 卒業論文提出者数と卒業生数は一致しない)

★ シンポジウム・講演会など

二〇二一年七月七日

東アジア哲学レクチャーシリーズ第一回

志野好伸「張東蓀にとっての中国哲学」

オンライン開催

二〇二一年八月四日

東アジア哲学レクチャーシリーズ第二回

小倉紀蔵氏「北学と東学・韓国と北朝鮮の哲学史解釈」

オンライン開催

二〇二一年九月十一日

International Conference: Celebrating the launch of 'The Journal of East Asian Philosophy' (主催: International Society of East Asian Philosophy)

登壇者: John Makeham氏、Lin Shaoyang氏、Goda Masato

オンライン開催

二〇二一年十月六日

東アジア哲学レクチャーシリーズ第三回

頼住光子氏「道元『正法眼蔵』の世界観」

オンライン開催

二〇二一年十二月一日

東アジア哲学レクチャーシリーズ第四回

野家啓一氏「近現代日本の科学哲学」

オンライン開催

二〇二一年十二月十日、十一日

International Conference: Philosophies around East Asian Seas

(主催: International Society of East Asian Philosophy)

基調講演者: Yusa Michiko氏、Philip J. Ivanhoe氏

オンライン開催

二〇二二年二月二日

東アジア哲学レクチャーシリーズ第五回

合田正人「翻訳としての哲学―「である」の冒険」

オンライン開催